

こどもの読解力向上プログラム

図書館改造計画



学びの学校づくり



こどもの読解力向上プログラム



図書館改造計画

(1) 授業をサポートする図書館

(2) 読書習慣をサポートする図書館

(3) 情報発信をする図書館

こどもの読解力向上プログラム

図書館改造計画

(1) 授業をサポートする図書館

図書館コーディネーター配置 新規予算

楽田小学校で図書館とメディア
ルーム(仮称)を運営すると共に、
図書館活用カリキュラムの活用促
進をデザインする

図書館活用カリキュラムの効果
的な運用を示唆する。教員・子ども
の図書館への入館率が向上する。
令和2年度に設置し、1人体制。

図書館司書の常駐化

タイムリーに教員の授業プラン
をサポートしたり、子どもたちへの
読書指導を継続的に実施する。
3か年の運用により、継続を判断。

必要なときにタイムリーに支援が
できるので、教員・子どもの司書・
図書館への期待感が増す。
令和3年度2名増員。

図書館施設設備の改修

使い易さは、子どもたちを呼び寄
せる魅力的な書架の工夫へと繋がる。

図書分類法に従って整理し、本
選びを容易にすることは、興味を引
く図書展示につながる。
小規模修繕(レイアウト・空間作り)

図書館活用 カリキュラムの作成

図書館指導担当教諭・市費司
書が新学習指導要領に合致した
カリキュラムの再編成に取り組む。

図書館活用カリキュラムを、図書
担当教諭や市費司書の手で仕上
げることにより、現場感覚に裏打ち
された実効的なものができあがる。

こどもの読解力向上プログラム



図書館改造計画

(2) 読書習慣をサポートする図書館

図書館司書研修

文化スポーツ課事業との連携
選書リストを活用して良書へ導く

市費司書の自信は積極的な配架計画に繋がる。
選書リストを作成し、公開することで保護者の良書購買に繋がる。

先進地域との連携

専門職としての役割を担うために先行実践から情報を得て、研究・実践を促進する。力量向上と効率的な図書館運営の促進を図る。

市費司書や図書館担当者の発言権が増し、図書館の利用を含めた読書指導について、各々の学校で工夫が進む。
学校間で、図書館利用率の向上を目指した具体的な取組が継続的に共有できる。

図書館活用推進委員会(仮称) 新規予算

学校図書館担当・市費司書等で構成し、外部アドバイザーの検証を受けつつ、犬山学校図書館のスタンダードを研究する。

こどもの読解力向上プログラム

図書館改造計画

(3)

情報発信をする図書館

市立図書館との連携

楽田小学校で市立図書館とメディアルーム(仮称)を運営する協力体制を確立する。

学校司書・市立図書館司書の連携が深まる。

●授業準備への協力体制

地域との共有

地域と共に育てる学校図書館を模索する。図書館活用に地域協働活動(南中)の要素を盛り込む。

教員がカバーしにくい時間帯を地域人材がフォローする。

●早朝・業後開館 ●休日会館 etc

メディアセンター(仮称) の活用方法

市立図書館と連動して、地域人材を活用した集客事業をプロデュースする。

休日に家族が来館する心地よい居場所作りが始まる。

●コミ主催の親子イベント etc

こどもの読解力向上プログラム



学びの学校づくり

(1) 学校力向上の取組に対する支援

(2) 特別支援教育への支援

(3) 不登校対策への支援

こどもの読解力向上プログラム

学びの学校づくり

(1) 学校力向上の取組に対する支援

人材の確保

一人一人の子どもたちのニーズに丁寧に寄り添うために

・ 市費負担教員の増員(継続) **同予算**

・ 教員養成大学との連携(新規)

・ 講師の早期確保(新規)

市費負担教員が増員されると……

＜県費(校務主任)の担任がなくなる＞

- ・ 少経験者への支援の機会が確保できる
- ・ 講師未補充への対処ができる
- ・ 特別な支援を要する子どもへの手当が拡充できる

教員養成大学と連携すると……

- ・ 犬山市で働きたいと思う講師の登録が増える
- ・ スクールサポートスタッフ(ボランティア)が増える

今年度予算内で常勤講師を最大限雇用し、県費教員(校務主任)を若年層の支援にあてることで、学級経営に対する不測の事態を防ぐと共に保護者の多様な要望に応える。

優秀な講師を大量に確保するために、教員養成大学との連携を深める。その連携を活用し、教員志望の学生ボランティアであるスクールサポーターの増員にもつなげる。

こどもの読解力向上プログラム

学びの学校づくり

国語科授業改善推進委員会が組織されると・・・

- ・読解力の向上を目指した授業の提言を行う
- ・図書館担当者との協議の時間が増す

授業改善アドバイザー等の粘り強い支援があると・・・

- ・取組の方向性を確認できる
- ・授業改善に向けた共通認識が構築できる
- ・教育技術の伝承により、年齢構成のアンバランスに対処

(1) 学校力向上の取組に対する支援

読解力向上への研究・研修

市内共通の目標に向けた具体的な活動を継続させるために

・国語科授業改善推進委員会(継続)

・授業改善アドバイザーの委嘱(新規)

・授業づくりCDの巡回指導(継続)

・読解力診断RSTの受験(継続)

国語科授業改善推進委員会は、国語力向上指標の実践を通して、授業改善の活動を牽引する。連携協定大学からアドバイザーを招聘し、方針・具体策について助言を得る。

授業づくりコーディネーター(CD)と経営調整室長による巡回指導を継続し、授業改善の気運を高め、授業力向上を目指す。

各中学校のRST(リーディングスキルテスト)担当者によって結果の分析を行い、研究機関と結果を精査し、具体的な改善策を講ずる。

こどもの読解力向上プログラム

学びの学校づくり

(2)

特別支援教育への支援

特別支援教育介助員 4人 → 6人(R2年度該当者)
※身体障害者手帳取得者・一次的欲求の援助が必要な者への介助
増額

「障害者差別解消法」に則り、設置のルールを明確にし、困難な課題を抱える対象者を支援する。

- ・設置要綱の見直し
- ・福祉部局との連携(訪問看護ステーション)

特別支援教育支援員 22人→段階的に28人へ 令和2年度+1
※通常学級に在籍する特別な支援が必要な子どもへの支援
増額

特別支援学級開設の基準緩和、通級指導教室の増設は進んでいるが、学びに困難を抱える児童生徒は増加の一途をたどり、学校の努力だけでは抱えきれなくなっている。

対象者への支援を充実させ、教師が本来の業務に専念できる環境を整える。

全ての子に等しく学ぶ機会を保障し、指導の充実を図ることに繋がる。
障害のない子どもたちにとっても、共生社会の形成に向けて、多様性を尊重する心を育むための絶好の機会となる。

こどもの読解力向上プログラム

学びの学校づくり

(3)

不登校対策への支援

スクールソーシャルワーカー(SSW)
設置(新規) 新規予算

不登校の要因の一つは保護者の生活力の不足が挙げられる。
福祉分野からの支援と教育部との支援を結びつける。

支援の網をかざして教員がカバーしにくい分野で家庭を支える。
丹葉地区の市町は全て設置済み。
補助金あり

学習支援コンサルタント(継続)

新たな一人を出さないための方策として、成果を上げている。子どもと直接係わるのは中学校に限定し、小学校では、もっぱら教師研修で活用する。

学習支援コンサルタントによる研修により、特別支援教育支援員の力量が向上している。問題を多く抱える中学校での支援に特化できる。

適応指導教室(ゆう・ゆう)の
改革(継続)

ゆう・ゆうの設置目的は居場所作りである。学校と本人が接触できない家庭を訪問する業務を新たに加えて、保護者の相談活動も行っている。

学校とゆう・ゆうとで指導方針の共通理解を図ることができる。
学校が接触に苦勞している家庭へじっくりゆっくりアプローチできる。